
学内活動報告

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究 1
P.87-90 (2012)

看護基礎教育の変革期を迎えた韓国を訪れて

A Report from Korea-How the Country Faces the Transition Period of Nursing Education

野村 志保子*

NOMURA Shihoko

はじめに

2011年10月25日～27日、韓国ソウル市にある梨花女子大学で開催された第3回日中韓看護学会に出席した。ソウルに到着した夜はソウル市長選挙の投票日2日前で市街は選挙演説で熱気に包まれていた。本学会主催国の韓国では、看護基礎教育の4年制一元化が実現し、その記念行事が学会プログラムに組み込まれていた。凶らずも、韓国の看護教育史上記念すべき大会に列席し、さらに韓国政党党首の看護職者への熱いメッセージを拝聴する好機に恵まれた。学会終了後、建陽大学校医科大学看護学科学術祭の講演のために大田(テジョン)市を訪れた。

本稿では、30年以上の歳月を経て念願の看護基礎教育の4年制一元化を成し遂げた韓国の看護基礎教育の4年制への動き、見学した韓国初の近代式病院といわれるセブランス病院の看護、建陽大学校の看護学生の様子について紹介する。

I. 第3回日中韓看護学会の概要

日中韓看護学会は日本看護協会、中華護理学会、大韓看護協会の3協会共催によるもので、アジア3ヶ国の看護職の学術交流の場として2009年から始まっ

た。それ以前は日本と中国の2カ国共催だった。3回目を迎えた本学会の参加者は約600名、日本からは144名だった(2011.11.15日本看護協会ニュース掲載)。

今回の学会テーマは「看護職の社会的責任とその役割」で、国際看護師協会(ICN)が看護職の社会的責任の重要性を喚起していることを受けてのテーマであった。3ヶ国の看護協会長の講演では、3ヶ国とも慢性疾患が増加、また家族のあり様の変化し急速な高齢化に伴う介護問題が深刻化しており、これらの状況に対応するための医療制度改革の取組みなどが紹介された。さらに、3ヶ国の看護職が国民の健康を守る担い手として共通の社会的責務を課せられていることが強調された。また、国民のニーズに応えるために高度な専門知識・技術を有した看護職育成のための教育制度も紹介された。一般演題では臨床の若いナースの発表も多く、意見交換の光景をみていると国際交流が根付いてきていることを実感し、熱いものがこみ上げてくる場面もあった。

II. 韓国の看護基礎教育は4年制一元化へ

学会初日の午後、大韓看護協会創立88周年記念式典が開催されたが、2012年から韓国の看護基礎教育が4年制一元化する法律が制定された祝賀の式典もあった。この式典には韓国の各地区の代表看護職・

* 順天堂大学保健看護学部

* *Juntendo University School of Health Science and Nursing*

(March 15, 2012 原稿受付) (March 31, 2012 原稿受領)

看護学生が2万人以上参列し、ハンナラ党や民主党の党首をはじめ国会議員、省庁役職者が数多く招かれていた。党首はじめ来賓の方々の祝辞がある度に、2つの風船棒を叩く音や歓声などで会場は割れんばかりの歓喜に満ち、韓国の看護職が長い間待ちわびた4年制一元化の実現を祝う場に居合わせる幸運に感謝するとともに、同じ看護職として感動を共有させて頂いた。

韓国の看護基礎教育制度の変遷をみると、アメリカの看護教育の影響を受けて、1955年に4年制看護大学が初めて設立されたが、日本と同様に多くは看護学校で看護師を養成していた¹⁾。1979年、短期大学や専門学校、看護学校を改組して「専門大学」が創設され、看護基礎教育は4年制大学と3年制専門大学の2つのコースで教育が行われてきた²⁾。この当時から大韓看護協会は、看護基礎教育制度を4年制プログラムに一元化するために政府・政党に粘り強く働きかけ、今回の法律制定の実現に繋げた。4年制一元化の政策により、3年制専門大学は5年間を目途に認証評価を受け質の保証を図りながら4年制へと改組する計画といわれる。既に33校の3年制専門大学は申請が受理され、今年3月(韓国は3月が新学期)から4年制看護大学としてスタートしている(大韓看護評価院からの情報)。因みに、2011年度の2コースの教育機関の数は、4年制看護大学109校、3年制専門大学は74校と大学が多いが、大学の方が多くなったのは2006年からといわれる³⁾。

III. セブランス病院の看護

セブランス病院は、延世大学校医科大学(日本の医学部)附属医療院の数多くある病院の一つである。李朝末期の1885年に設立された韓国初の近代式病院といわれ、創生期の頃が“済衆院(チェジュンウォン)”という韓国ドラマに描かれている。病院の玄関に入って驚いたのは、外来患者が1日15,000人近くいると

いうのに静かで、ホテルのロビーのようで、ギャラリィやホールがあり、時にコンサートも開かれるという。日本の病院では見られないようなフードコートも1階にあった。

看護部教育担当者の話によると、病床数は約2000床、ナースは1700人余りで、900人近くのナースが韓国の看護師免許だけでなくアメリカの看護師資格も有しているという(日本でも日本の看護師免許を持っていれば、アメリカの看護師国家試験NCLEXを受験し合格すればアメリカの看護師資格を取得できる)。

看護部の看護方針は、「Green Care」と紹介された。“Green”は、① Genuine ② Right ③ Evidence based ④ Energetic ⑤ Nurturingの5つの頭文字を表したもので、印象的な言葉だった。もうひとつ印象的だったのは看護師のユニホームである。管理者は白や茶系のスーツ、スタッフは白の半袖のユニホームだが、防寒には白のジャケットを着ており、日本の看護師が着ているカーデガンに比べるとスマートで清潔感があった。

IV. 建陽(コニャン)大学校の看護基礎教育

1. 建陽大学校の概要

建陽大学校は1991年に開学し、日本の学部でいえば文系学部、経商学部、理学部、医学部等の12学部、11研究所、医学部附属病院、5部門の大学院を有し、キャンパスは論山(ノンサン)市と大田(テジョン)市に分かれている。韓国内では就職率が高い大学といわれ、2010年度の医師国家試験の成績は首席だったという。

看護学科学術祭の講演のために訪れた建陽大学校医科大学は大田(テジョン)市にある。大田市は、ソウルから高速鉄道で1時間ほどの韓国のほぼ中央部に位置し、韓国で5番目の大都市といわれている。大田市は1993年に科学国際博覧会が開催され、近年急

速に発展を遂げており、高層の建物が増え、大学の構内も周辺も訪れるたびに様相が変化し、発展している様子がうかがえる。

看護学科は2012年度から学生定員が1学年120名になり、学科から学部になった。

2. 看護学科学術祭での講演

看護学科を訪問したのは3度目だが、看護学生に講演をするのは初めてだった。学術祭は、毎年、秋に卒業後10年目の卒業生を招待するHomecoming Dayを兼ねて開催される。学術祭は18時30分から始まり、第1部が講演、第2部Homecoming Dayの行事、さらに在學生と卒業生の懇談会など22時頃までプログラムが組まれていた。企画・運営は全て学生によって行われていたが、夕方まで通常の授業があるのには驚いた。

講演で私に与えられたテーマは「Basic Nursing Competency」だった。講演前は内容を理解してただけかどうか不安だったが、講演後、学生や卒業生から看護の原点に立ち戻ることができた、看護を行うときに常に心に留めておきたいなどの反応を聞いて少し肩の荷がおりた。講演資料やスライドを韓国語に翻訳し、講演の通訳をしていただいたのは看護学科卒業後10年目のKさんである。Kさんは大変流暢な日本語だったが、学習のきっかけは日本のアニメだという。大学4年生のとき、アニメの音楽の美しさに感動し、日本語で歌ってみたい一心で勉強し、大学卒業後は放送大学の通信教育を受け、さらに、卒業後3年目に日本のN大学病院で3カ月間研修した。現在、二人の子供を育てながら地方の大学病院で働き、近い将来アメリカの看護師国家試験NCLEXを受験し、大学院に進学したいと夢に向かって邁進している。帰国後、Kさんとは日本の文献の検索や日本からの病院訪問者にプレゼンテーションするスライドの日本語の添削を頼まれたり、韓国の看護教育の実情を教えて頂くなど交流が続いている。

3. 看護学科学生の学習への取り組み

建陽大学校の看護学生との交流は、前任校の久留米大学医学部看護学科に短期留学生として6名の学生を受け入れたことから始まった。初めて韓国の看護学生と接して感動したのはマナーの良さと授業を受ける真摯な態度と行動力である。日本語が挨拶程度しか話せない状況で研修に来ていたが、積極的に授業や行事に参加し、その様子を大学の総長に日々レポートしてメールで送っていた。さらに帰国後、総長始め幹部の前で研修成果をプレゼンテーションしたという。学生たちが帰国するとき、卒業後は看護師として病院に研修に来るようにと助言したが、直ちに日本語を学習し、卒業後2年目に日本の病院で研修している。美しい漢字と仮名の手紙をいただく度に、日本の看護学生もこのようになってほしいと思う。

前回、建陽大学校を訪問の折に授業に参加したが、全ての学生は教師が立て板に水のごとく話す講義を背筋を伸ばして聞いており、時折名指して投げられる質問にも間髪をいれずに解答する光景に感嘆したものだ。授業が終わると、起立して“カムサハムニダ(有難うございます)”と言う。10分の休憩時間は机に伏せてしっかり睡眠をとっていたが、また、看護学科には、4年間、同一教員のもとで研究活動を行うプログラムが開学以来続いている。この活動は履修単位に含まれない自主研究活動で、その成果が学術祭会場の入口ホールにポスターで発表されていた。

韓国の看護大学の卒業要件単位数は、各大学の裁量で決められているといわれる。通訳して頂いたKさんが在学した頃は154単位、現在は140単位以上で、3年制大学は120単位以上といわれ、日本の看護大学と同様に過密なカリキュラムである。

おわりに

今回の韓国の訪問では、30年以上の地道な活動を経て看護基礎教育の4年制一元化が実現した看護職

の歓びを直に感じさせて頂いた。また、これまで交流があった建陽大学校の教員や看護学生と一層密な関わりをもち、充実した時間を過ごすことができた。講演後、建陽大学校病院で働いている卒業生の方々と親しくお話しすることができたが、その中の二人が、昨年の7月、順天堂大学医学部附属順天堂医院において1カ月間、研修させて頂いた。この研修が実現したのは、国際交流センター、順天堂医院長・看護部長、本学部の稲富学部長はじめ多くの教職員の皆様の多大なご尽力・ご支援のお陰である。研修した看護師は順天堂医院で多くの学ばせていただき、現在、建陽大学校病院で研修の成果を還元できるように活動している。

このような国際交流が、これからの看護を担う若

い人たちが頻繁に体験できるように、微力ではあるが努力したいと思っている。

引用・参考文献

- 1) 金曾任：看護員から看護師へ 韓国における看護の変遷と専門性、週間医学界新聞第2196号、1996
- 2) 水田健輔、金泰勲、金鉉玉、朴炫貞：大学の設置形態に関する調査研究－第1章韓国における高等教育制度と大学の設置形態－、国立大学財務・経営センター研究報告第13号、2010
- 3) 角田由佳：韓国は看護の問題にどう取り組んでいるか、週間医学界新聞第2810号、2008